

成紀七三五年三月

刑事訴訟法中一部改正ノ件草案

司法部刑事科

OpCARD 10

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43

刑事訴訟法中一部改正ノ件草案

目次

第一章	政府機構ノ改革ニ伴フ改正	一
第二章	檢察機構ノ改革ニ伴フ改正	四
第三章	訴訟手續ノ簡略迅速強化ヲ圖ル爲メノ改正	一〇
第四章	裁判手續ノ規定ニ關スル規定ノ改正	二七
第五章	裁判方針ノ自由	三一
第六章	證據方法ノ自由	三三
第七章	證據規定ノ緩和	三六
第八章	關席判決手續	四三
第九章	沒收手續並沒收ノ執行ニ關スル規定ノ改正	四七
第十章	其ノ他ノ改正	五〇

刑事訴訟法中一部改正ノ件

第一章 政府機構ノ改革ニ伴フ改正

第一條

刑事訴訟法第四條第三號ニ「國交ヲ妨害スル罪」トアルヲ「政府ノ
對外國係ヲ妨害スル罪」ニ
同法第三百三十四條、第三百六十六條第二項ニ「國家ノ利益」トアルヲ
「政府ノ利益」ニ改ム

「船舶ノ呼称」ニシテ
 同法第三十條ノ「船舶」ニ「國籍ノ呼称」トイフ
 其國籍ヲ被稱スルモノニ
 所稱船舶並其國籍三條ニ「國籍」被稱スルモノ「船舶」
 第一條
 第一條 船舶ノ呼称ハ其國籍ヲ被稱スルモノ
 所稱船舶並其國籍中一國籍並其國籍

第二條

刑事訴訟法第五條第二項ニ「中華民國領域外ノ中華民國艦船又ハ
 航空機内」トアルヲ「蒙古聯合自治政府領域外ノ蒙古聯合自治政
 府艦船又ハ航空機内」ニ改ム

『曼』ニ「道普僧傳官」4丁ム、
「法華經疏證」ニ題ム
漢書福壽共著二百二十二封一函ニ「枝文清雲」4丁ム、
「佛藏疏

第一條

第二章 檢察機構ノ改革ニ伴フ改正

刑事訴訟法第三條、第十六條、第三十六條、第五十二條第二項、第六十三條、第六十七條第一項、第八十六條、第八十七條、第九十二條第一項第二項、第百五條第三項、第百九條、第百十九條第二項、第百五十二條乃至第百五十四條、第百六十條、第百七十條、第百八十二條第一項第二項、第百八十五條、第百八十八條第二項、第百九十一條第一項、第百九十二條第一項、第百九十五條第一項、第二百七條、第二百十五條、第二百二十一條、第二百二十三條、第二百二十六條、第二百二十八條乃至第二百三十條第一項、第二百三十三條、第二百三十四條第一項、第二百四十條、第二百四十二條、第二百四十三條、第二百四十五條、第二百四十六條、第二百四十八條第一項、第二百五十條、第三百十五條第一項第二項、第三百二十二條第一項

第三百二十三條第二項、第三百二十四條、第三百二十八條第一項第一項、第三百三十六條第二項、第三百三十九條、第三百四十八條、第三百七十五條第二項、第四百三十一條第一項、第四百四十二條第一項、第四百四十四條第一項、第四百四十五條、第四百五十九條第一項、第四百六十三條、第四百六十四條、第四百七十一條、第四百七十二條、第四百七十三條第一項、第四百七十四條第一項、第四百七十七條、第四百七十八條、第四百七十九條第一項、第四百八十二條、第四百八十三條、第四百八十五條、第四百八十六條、第四百八十八條ノ規定中「檢察官」トアルヲ孰レモ「檢察廳」ニ改ム



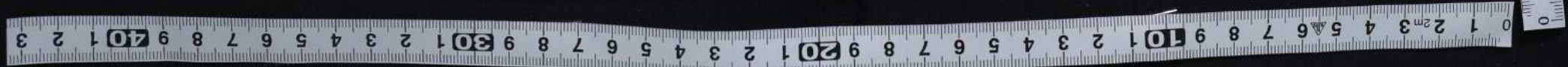
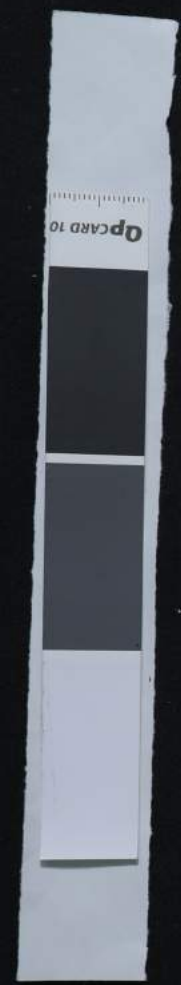
第二條

刑事訴訟法第十五條ニ「一檢察官」トアルヲ「一檢察廳」ニ「該管
他ノ檢察官」トアルヲ「該管他ノ檢察廳」ニ「共同ノ直接上級法院
ノ首席檢察官又ハ檢察長」トアルヲ「直接上級檢察廳」ニ
同法第七十條ニ「原檢察官」トアルヲ「原檢察廳」ニ
同法第八十五條第三項ニ「檢察長或ハ首席檢察官」トアルヲ「檢察
廳長」ニ
同法第二百三十五條ニ「原檢察官」トアルヲ「原檢察廳」ニ「直接
上級法院首席檢察官或ハ檢察長」トアルヲ「直接上級檢察廳」ニ
同法第二百三十六條第一項及第二項ニ「原檢察官」トアルヲ「原檢
察廳」ニ同條第二項ニ「上級法院ノ首席檢察官或ハ檢察長」トアル
ヲ「直接上級檢察廳」ニ同條第四項ニ「原法院ノ首席檢察官」トア
ルヲ「原檢察廳長」ニ
同法第二百三十七條ニ「上級法院首席檢察官或ハ檢察
廳長」トアルヲ「上級檢察廳」ニ「原法院檢察官」トアルヲ「原

同法第四百三十五條ニ「檢察官」トアルヲ「檢察廳」ニ「最高級法院ノ檢察官」トアルヲ「最高級法院ノ檢察長」トアルヲ「最高檢察廳」ニ
同法第四百三十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ

檢察廳ニ

同法第三百七十七條第一項第二項ニ「第三審法院ノ檢察官」トアルヲ「最高檢察廳」ニ第二項但書ニ「原審法院檢察官」トアルヲ「原檢察廳」ニ同條第三項ニ「檢察官」トアルヲ「檢察廳」ニ
同法第四百二十條第一項第一號ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ
同法第四百二十一條及第四百二十三條ニ「管轄法院ノ檢察官」トアルヲ「管轄法院對置ノ檢察廳」ニ



同法第四百八十條ニ「最後ノ住所地ノ地方法院ノ檢察官」トアルヲ「最後ノ住所地ノ地方檢察廳」ニ「該法院」トアルヲ「對置法院」ニ同法第四百八十一條ニ「最後ノ判決ノ法院ノ檢察官」トアルヲ「最後ノ判決ノ法院ノ對置檢察廳」ニ夫々之ヲ改ム

刑事訴訟法第二十六條第二項ニ「所屬首席檢察官或ハ檢察長」トアルヲ「所屬ノ檢察廳長」ニ、同條第三項ニ「首席檢察官ノ迴避」トアルヲ「地方檢察廳長及高等檢察廳長ノ迴避」ニ、「直接上級法院ノ首席檢察官或ハ檢察長」トアルヲ「直接上級檢察廳長」ニ改ム

一、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

條第二項ニ「各級法院」トアルヲ「各級法院及檢察廳」ニ

條第二項ニ「各級法院」トアルヲ「各級法院及檢察廳」ニ

同法第六十條ニ「法院或ハ檢察長首席檢察官或ハ檢察官ノ許可」トアルヲ「法院或ハ檢察廳」ニ「法院ノ牌示處」トアルヲ「法院或ハ

觀察廳ノ牌示處」二

「較近ノ法院」トアルヲ「較近ノ法院或ハ檢察廳

同法第六十四條ニ「其ノ所在地法院」トアルヲ「其ノ所在地法院
或ハ檢察廳」ニ

同法第九十六條ニ「法院ニ向ヒテ」トアルヲ「法院或ハ檢察廳ニ向ヒテ」ニ

同法第百九十條第一項ニ「檢察官」トアルヲ「檢察廳」ニ「法院外」トアルヲ「法院或ハ檢察廳外」ニ執レモ改ム

「トアルヲ「法院或ハ檢察廳外」ニ孰レモ改ム

第六條

刑事訴訟法第八十一條ノ規定中其ノ第二項ニ「法院ニ向ヒテ」ト
アルヲ「法院或ハ檢察廳ニ向ヒテ」ニ改メ且第三項トシテ左ノ規定
ヲ置ク
「第七十七條ノ三ノ準備又ハ指置ヲ講スル爲特ニ要シタル費用ニ
付キ亦同シ」

第七條

刑事訴訟法第六十八條第一項ニ「檢察官ノ命令」トアルヲ「檢察廳
ノ命令」ニ「該聲請ヲ管轄スルノ法院」トアルヲ「該聲請ヲ管轄ス
ルノ法院或ハ檢察廳」ニ改メ且第六十九條ニ代フルニ左ノ規定ヲ以
テス

「第六十九條 原狀回復ノ申請ハ申請ヲ受ケタル法院又ハ檢察廳ニ
於テ補行シタル訴訟行為ト併合シテ之ヲ審理ス若シ原審法院又ハ原
檢察廳其ノ申請ヲ許可スヘキモノト認ムルトキハ意見書ヲ附シテ其
ノ案件ヲ送リ上級法院又ハ上級檢察廳ニ於テ併合シテ審理ス
申請ヲ受ケタル法院又ハ檢察廳ハ原狀回復ノ申請ニ付キ審理ヲ完結
ナル迄原裁判又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得」

「第六十九條 原狀回復ノ申請ハ申請ヲ受ケタル法院又ハ檢察廳ニ
於テ補行シタル訴訟行為ト併合シテ之ヲ審理ス若シ原審法院又ハ原
檢察廳其ノ申請ヲ許可スヘキモノト認ムルトキハ意見書ヲ附シテ其
ノ案件ヲ送リ上級法院又ハ上級檢察廳ニ於テ併合シテ審理ス
申請ヲ受ケタル法院又ハ檢察廳ハ原狀回復ノ申請ニ付キ審理ヲ完結
ナル迄原裁判又ハ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得」

第八條

刑事訴訟法第二百一十一條第一項ニ「第百七條ノ羈押ノ撤銷」トアルヲ削除シ之ニ代フルニ「第百七條及ヒ第百九條ノ羈押ノ撤銷」ヲ以テシ「檢察官ノ命令」トアルヲ「檢察廳ノ命令」ニ改メ且第三項トシ左ノ規定ヲ置ク

「法院第一項ノ裁定ヲ爲スニ當リオハ檢察廳ノ意見ヲ聽クヤトヲ要ス」

[illegible]

「若し第一項ノ規定ニ依リテハ檢察廳ノ意見ニ依リテ
シテ左ノ規定ヲ置ク
「法院前二項ノ還付又ハ假還付ヲ爲ストキハ檢察廳ノ意見ヲ聽ク
トス」

第九條

刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ規定中「法院ノ裁定或ハ檢察官ノ
命令」トアルヲ「法院ノ裁定或ハ檢察廳ノ命令」ニ改メ且第三項ト
シテ左ノ規定ヲ置ク
「法院前二項ノ還付又ハ假還付ヲ爲ストキハ檢察廳ノ意見ヲ聽ク
トス」

「第二項：前項ノ罰鍰ヲ科スル處分ハ法院ノ裁定或ハ檢察廳ノ命令ヲ以テ之ヲ爲ス」

「第三項 前項ノ裁定又ハ命令ニ對シテハ不勝申立ヲ爲スコトヲ得

「新編第二集」の發行は、當時の文壇に大きな影響を與へた。この「新編第二集」は、明治二十二年（一八八九年）に發行された。この「新編第二集」は、明治二十二年（一八八九年）に發行された。この「新編第二集」は、明治二十二年（一八八九年）に發行された。

「第三節 裁判ノ結果又ハ合意ニ達セザルハ不問申立ミ被スロイモ
 思ヘズモ裁ス」
 「第二節 裁判ノ結果又ハ合意ニ達セザルハ不問申立ミ被スロイモ
 思ヘズモ裁ス」
 第十條

第十條

刑事訴訟法第六條第二項ノ規定ヲ左ノ如ク改正ス
 「前項ノ場合ニ於テ若シ各事件數個ノ法院ニ繫屬スルトキハ各法院
 ハ檢察廳ノ請求ニ因リ該定ヲ以テ一ノ法院ニ併合スルコトヲ得此ノ
 場合ニ於テ各法院ノ該定一致セサルトキハ各法院ニ共通セル直接上
 級法院ハ檢察廳ノ請求ニ因リ該定ヲ以テ一ノ法院ニ併合スルコトヲ
 得」

Op CARD 10

第十二條

刑事訴訟法第八條但書ノ規定ヲ左ノ如ク改正ス
「但シ共同ノ直接上級法院ハ檢察廳ノ請求ニ因リ裁定ヲ以テ後ニ緊
屬シタル法院ヲシテ審判爲サシムルコトヲ得」

第十三條

刑事訴訟法第九條第一項第十條ノ規定中「左列情形ノ一アルトキハ」ナル字句ノ次ニ「檢察廳ノ請求ニ因リ」ナル字句ヲ第九條第二項中「其ノ管轄法院ヲ定ムルコト能ハサルトキハ」ナル字句ノ次ニ「最高檢察廳ノ請求ニ因リ」ナル字句ヲ同法第十一條ノ規定中「書狀ヲ以テ理由ヲ敘述シ」ナル字句ノ次ニ「檢察廳ヲ經由シテ」ナル字句ヲ搜入ス

「其ノ管轄法院ヲ定ムルコト能ハサルトキハ」ナル字句ノ次ニ「最高檢察廳ノ請求ニ因リ」ナル字句ヲ同法第十一條ノ規定中「書狀ヲ以テ理由ヲ敘述シ」ナル字句ノ次ニ「檢察廳ヲ經由シテ」ナル字句ヲ搜入ス

Op CARD 10

被告を被告として「ヤム」等と稱する人
 同條第十一條ノ規定中「被告」を「被告人」と改め
 被告を被告として「ヤム」等と稱する人
 中「其」を「被告」と改め「ヤム」等と稱する人
 「ヤム」等と稱する人「ヤム」等と稱する人
 同條第十一條ノ規定中「被告」を「被告人」と改め
 被告を被告として「ヤム」等と稱する人
 同條第十一條ノ規定中「被告」を「被告人」と改め
 被告を被告として「ヤム」等と稱する人

第三章 訴訟手續ノ簡略、迅速強化ヲ圖ル爲メノ改正

第一條

刑事訴訟法第八十二條ノ規定中「被告所在地ノ檢察官ニ囑託シ」ト
 アルヲ「被告所在地ノ法院、檢察廳、軍法官署又ハ司法警察官ニ
 囑託シ」ト
 改メ
 「該檢察官ハ其ノ所在地ノ檢察官ニ轉囑託スルコトヲ得」トアル
 ヲ「囑託ヲ受ケタルモノハ受託ノ權限アルモノニ轉囑託スルコトヲ
 得」ト改メ 且第二項トシテ「囑託ヲ受ケタル者ハ勾引狀ヲ發ス
 ヘシ」ナル規定ヲ置ク

Op CARD 10

刑事訴訟法第百八條第一項ノ規定ニ代フルニ左ノ規定ヲ以テシ同條第二項ノ規定中

「偵査中ハ一回限リトス最モ重キ本刑カ三年以下ノ有期徒刑以下ノ刑ナル場合ハ審判中三回限リトス」トアルヲ削ル
「第百八條第一項 被告ノ勾留ハ偵査中ハ二月ヲ逾ユルコトヲ得ス 審判中ハ三月ヲ逾ユルコトヲ得ス 但シ法院及檢察廳ハ勾留ヲ繼續スル必要アルトキハ期間満了前法院ノ裁定又ハ檢察廳ノ命令ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得」

[illegible]

第三家 龍鳳年信、請律、長發經書、國公書、萬王

「勾留停止ノ申請却下セラレタルトキハ二十日ヲ経過スルニ非
レハ同一原由ヲ以テ更ニ申請ヲ反覆スルコトヲ得ス」

[illegible]

第四條

刑事訴訟法第二百三十二條ノ規定ヲ左ノ如ク改ム
「檢察廳ハ犯罪ノ嫌疑アルトキト雖モ刑法第五十七條ノ列記事
其ノ他諸般ノ事情ヲ參酌シ不起訴ヲ以テ適當ト認メタルトキハ不
起訴ノ處分ヲ爲スコトヲ得」

第五條

刑罰訴訟法第二百四十四條ノ規定ヲ左ノ如ク改ム

「第一審辯論終結前被告ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ追加シテ起訴スヘキ場合ニ於テハ審判期日ニ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得」

其ノ辯論終結前被告ニ他ノ犯罪アルコトヲ發見シ追加シテ起訴スヘキ場合ニ於テハ審判期日ニ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五條

刑事訴訟法第二百九十七條ノ規定中「其ノ許可ヲ受ケスシテ退庭シタルトキ亦同シ」トアルヲ削除シ之ニ代フルニ
「其ノ許可ヲ受ケスシテ退庭シ又ハ公判庭ノ秩序維持ノ爲メ審判長ヨリ退庭ヲ命セラレタルトキ亦同シ」ナル規定ヲ以テス

是日午後三時、被告等、東京府裁判所へ出頭し、審判官、被告等、
「其ノ他ノ場合ニ於テ被告正當ノ理由ナク審判期日ニ出頭セサルコ
ト連續二回ニ及ビタルトキ亦同シ」
と連續二回ニ及ビタルトキ亦同シ

第六條

刑事訴訟法第二百九十八條ニ第二項トシテ左ノ規定ヲ置ク
「其ノ他ノ場合ニ於テ被告正當ノ理由ナク審判期日ニ出頭セサルコ
ト連續二回ニ及ビタルトキ亦同シ」

第二條

刑事訴訟法第二百六十七條ノ次ニ第二百六十七條ノ二及ヒ三トシ
テ左ノ規定ヲ置ク

「第二百六十七條ノ二 陪席推事及ヒ檢察官ハ 審判長ニ告ケル後

被告、證人、鑑定人又ハ通譯ヲ訊問スルコトヲ得

辯護人ハ審判長ノ許可ヲ受ケ被告、證人、鑑定人又ハ通譯ヲ訊問

スルコトヲ得

被告及ヒ自訴人ハ必要トスル事項ニ付キ共同被告、證人、鑑定人
又ハ通譯ヲ訊問スヘキコトヲ 審判長ニ請求スルコトヲ得」

「第二百六十七條ノ三 審判長ハ陪席推事ヲシテ 被告訊問及

審問ヲ爲サシムルコトヲ得」

「全陪席ニハ通譯ヲ置クハハロイマシ」
陪席推事及ヒ檢察官ハ審判長ニ告ケル後
被告、證人、鑑定人又ハ通譯ヲ訊問スルコトヲ得
辯護人ハ審判長ノ許可ヲ受ケ被告、證人、鑑定人又ハ通譯ヲ訊問
スルコトヲ得
被告及ヒ自訴人ハ必要トスル事項ニ付キ共同被告、證人、鑑定人
又ハ通譯ヲ訊問スヘキコトヲ 審判長ニ請求スルコトヲ得」
「第二百六十七條ノ三 審判長ハ陪席推事ヲシテ 被告訊問及
審問ヲ爲サシムルコトヲ得」

附則
明治三十四年四月一日法律第二十號ニ依リテ改定スルモノ、第五

刑事訴訟法第二百七十八條ノ規定ニ「前五條ノ規定ヲ準用ス」トアレ
ルヲ「第二百六十七條ノ規定ニ「前五條ノ規定ヲ準用ス」トアレ
規定ヲ準用ス」ニ改ム

第四條

刑事訴訟法第二百七十八條ノ規定ニ「前五條ノ規定ヲ準用ス」トアレ
ルヲ「第二百六十七條ノ規定ニ「前五條ノ規定ヲ準用ス」トアレ
規定ヲ準用ス」ニ改ム

OpCARD 10

刑事訴訟法第二百四十四條ノ規定ノ次ニ第二百四十四條ノ二トシ
テ左ノ規定ヲ置ク
「第二百四十四條ノ二 法院ハ第一等審判終結前被告ニ他ノ犯罪
アルコトヲ發見シ現ニ審判中ノ案件ト共ニ審判スルヲ相當ト認ム
ルトキハ追加シテ起訴スヘキコトヲ檢察廳ニ請求スルコトヲ得
前項ノ請求ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ審判期日ニ於テハ口頭
ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
口頭ニ依ル請求ヲ爲シタルトキハ其ノ旨調査ニ記載スヘシ
檢察廳第一項ノ請求理由ナシト認ムルトキハ不起訴處分ヲ爲スヘ
シ 此ノ處分ニ對シテハ不服申立ヲ許サス」

第五章 裁判方針ノ自由

第一條

第二條

刑訴法第一百七十三條、第三百六十二條、第四百三十二條規定ヲ削除ス

[illegible]

第一條

刑事訴訟法第七十七條ノ規定ノ次ニ第七十七條ノ一及ヒ三トシテ左ノ規定ヲ置ク

「第七十七條ノ五 證人ニハ供述ノ内容ト關係アル文書、帳

傳其ノ他ノ書類ヲ閱覽シツツ供述スルコトヲ許スコトヲ得

第百七十七條ノ三 證人ニハ文書、帳簿、書類、圖畫又ハ物件ヲ

携帶シ若ハ必要ナル準備又ハ^用指^指揮ヲ課シテ出頭スヘキコトヲ命

スルコトヲ得」

第六章 證據方法ノ自由

10

第二條

刑事訴訟法第二百七十條ノ規定ノ次ニ第二百七十條ノ二トシテ左ノ規定ヲ置ク

「推察、檢察官又ハ書記官ハ其ノ職務上、公判庭外ニ於テ知得シタル事項ニ付キ證人タルコトナクシテ審判長ノ諮問ニ應ジ公判庭ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ得
前項ノ陳述ハ證據トナル」

第一條

凡ソ裁判官ハ其ノ職務上、公判庭外ニ於テ知得シタル事項ニ付キ證人タルコトナクシテ審判長ノ諮問ニ應ジ公判庭ニ於テ陳述ヲ爲スコトヲ得
前項ノ陳述ハ證據トナル

前略ハ新舊ハ無異イタル
ニ就テ新舊モ異ニヒトモ
モハ新舊ニ於テ人モヒトモヤ
「並ニ」新舊百又ハ新舊官ハ其ノ
ノ新舊モ異モ
新舊相違モ二百十條ノ新舊ハ其ノ
二百十條ノ新舊ハ其ノ

第三條

刑事訴訟法第二百七十條ノ規定ノ次ニ第二百七十條ノ三トシテ
左ノ規定ヲ置ク

「被告其ノ他ノ者ノ供述ヲ錄取シタル書類ニシテ軍法官署又ハ政
府ノ領域内ニアル外國ノ治安又ハ審判機關ノ職務上作製シタルモ
ノハ證據ト爲スコトヲ得」

審判期日ニ於ケル辯論手続ニ付テハ審判部書記官ノ記載ヲ以テ反證ヲ許ス
審判部書記官ニ記載ナキ手続ニ付テハ其ノ適法ナル履践アリトモナリト推定ス

第二條

刑事訴訟法第七十一條ノ規定ノ次ニ第七十一條ノ一トシテ左ノ規定ヲ置ク

「法院又ハ檢察廳ハ急遽ヲ要スル場合ニ於テハ召喚狀ヲ用ルコトナク口頭、電信、電話又ハ其ノ他ノ方法ニ因リ被告ニ告知シテ法院又ハ檢察廳ニ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ出頭命令ハ推察、檢察官、書記官、執達員又ハ庭丁之ヲ被告ニ傳達スヘシ、被告監獄、看守所又ハ警察署ニ在ルトキハ其ノ長官ニ通知スルヲ以テ足ル
被告本條ノ規定ニ依リ出頭シタルトキハ其ノ旨記録ニ記載スヘシ」

「第四條」ニ「急遽ヲ要スル場合」ハ「急遽」ニ限ラズ「必要」トシテ「口頭、電信、電話又ハ其ノ他ノ方法」ニ「因リ」トシテ「被告ニ告知シテ」トシ「法院又ハ檢察廳」ニ「出頭ヲ命スルコトヲ得」トスル

第三條 通譯官、書記官

OpCARD 10

38

第三條
刑事訴訟法第九十三條ノ規定ニ「二十四時間」トアルヲ「四十八時間」ニ改ム

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41

OpCARD 10

39

第四條

刑事訴訟法第百一條ノ規定ニ但書トシテ左ノ規定ヲ附加ス
「但シ 被告逃亡シタルトキハ訊問ヲ爲サスシテ勾留スルコトヲ
得」

新編「ニ」
刑事訴訟法第百十三條ノ規定ニ「二十條」
「イマ」
「四十八」

第五條

刑事訴訟法第四百十六條第一項但書中「急迫ノ情形ニアルトキハ此ノ限ニ在ラス」トアルヲ「急迫ノ事情アルトキ^モハ内亂、外患ノ罪其ノ他政權ノ存立ヲ危殆ナラシムル罪ニ關スル場合ハ此ノ限ニ在ラス」ト改ム

第一
一、急迫ノ情形ニアルトキハ内亂、外患ノ罪其ノ他政權ノ存立ヲ危殆ナラシムル罪ニ關スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

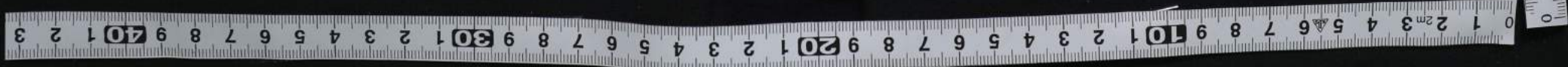
OPCARD 10

41

第六條

刑事訴訟法第二百五十一條但書ヲ削除シ左ノ規定ヲ以テ之ニ代フ
「但シ被告異議ナキトキハ前項ノ期間ヲ存セサルコトヲ得」

刑事訴訟法第二百五十一條但書ヲ削除シ左ノ規定ヲ以テ之ニ代フ
「但シ被告異議ナキトキハ前項ノ期間ヲ存セサルコトヲ得」



七六

十日以上」ニ改ム

42

十日以上の二週間
或る期間を満ちたる二百八十六日、或る二「十五日以上の二週間」イマハ「三
十日以上

第八章 調停判決手續

第一條

刑事訴訟法第七編ノ表題「略式手續」トアルヲ「特別手續」ニ
改メ且同編ヲ「第一章略式手續第二章調停手續」ノ二章ニ分チ第
一章中ニ第四百四十二條乃至第四百五十九條ノ規定ヲ置キ第二章ニ
左ノ規定ヲ置ク

第四百五十九條ノ一 檢察廳刑事訴訟法第二百三十條第二項ノ規定
ニ因リ公訴ヲ提起シタル場合又ハ公訴提起後被告逃亡シタル場合ニ
シテ公安維持ノ爲即時ニ判決ヲ必要ト資料スルトキハ法院ニ對シ被
告調停ノ體判決スヘキコトヲ請求スルコトヲ得但シ被告カ政府ノ領
域外ニ在ルモノト推定スヘキトキハ即時ニ引致スルコト能ハサルト
キ又ハ其ノ引渡ヲ受クルコト能ハサル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコト
ヲ得ス被告カ政府領域内ニ潛伏スルモノト推定スヘキトキハ其ノ所
在ヲ知ルコト能ハサル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

別紙

OPCARD 10

訴訟手続ニ関スル規定ヲ適用ス
第四百五十九條ノ三 調停審判ノ開始ヲ命スルノ裁定ニハ左ノ事項ヲ
記載スヘシ
一 被告ノ氏名、年齢、職業、最後ノ住居、本籍
二 公訴事實
三 審判ヲ爲スヘキ法院及ヒ審判期日
前項ノ裁定アリタルトキハ其ノ旨法院ノ揭示所ニ公告スヘシ

法院前項ノ請求ヲ理由アリト認ムルトキハ裁定ヲ以テ調停審判ノ開始
ヲ命スヘシ

法院第一項ノ請求理由ナシト認ムルトキハ裁定ヲ以テ請求ヲ却下スヘ
シ此ノ裁定ニ對シテハ抗告スルコトヲ得ス

第四百五十九條ノ二 調停手續ニ於テハ本法ノ規定中被告ノ不在ニ因
リ遵守スルコト能ハサルモノ及ビ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除キ通
常手續ニ關スル規定ヲ適用ス

第四百五十九條ノ三 調停審判ノ開始ヲ命スルノ裁定ニハ左ノ事項ヲ
記載スヘシ

一 被告ノ氏名、年齢、職業、最後ノ住居、本籍

二 公訴事實

三 審判ヲ爲スヘキ法院及ヒ審判期日

前項ノ裁定アリタルトキハ其ノ旨法院ノ揭示所ニ公告スヘシ

前項ノ被告アリキハ其ノ旨裁判ノ結果ニ公告スヘシ
三 裁判ノ結果ハ其ノ旨裁判ノ結果ニ公告スヘシ
二 公判事實
一 被告ノ姓名、年齢、性別、職業、住所、本籍
第四百五十九條ノ三 刑事裁判ノ開始ニ合スルノ場合ニハ本條ニ
第四百五十九條ノ二 刑事裁判ノ開始ニ合スルノ場合ニハ本條ニ
第四百五十九條ノ一 刑事裁判ノ開始ニ合スルノ場合ニハ本條ニ
第四百五十九條ノ四 刑事裁判ノ開始ニ合スルノ場合ニハ本條ニ

第四百五十九條ノ四 刑事裁判ノ開始ニ合スルノ場合ニハ本條ニ
第四百五十九條ノ五 法院開庭手續ヲ開始シタル場合ニ於テ被告ノ在
庭ヲ必要ト認ムルトキハ檢察廳ノ意見ヲ聽キ裁定ヲ以テ手續ヲ停止ス
ヘシ此ノ裁定ニ對シテハ抗告スルコトヲ得ス
第四百五十九條ノ六 開庭手續ニ於テ言渡シタル判決ハ公示送達ヲ爲
スヘシ
前項ノ公示送達ノ效力發生前被告逮捕セラレ又ハ其ノ所在判明シタル
トキハ改メテ判決ノ正本ヲ送達スヘシ
第四百五十九條ノ七 前條ノ判決正本送達後十日内ニ被告ハ手續反覆
ノ申立ヲ爲スコトヲ得法院ハ檢察廳ノ意見ヲ聽キ前項ノ申立ニ對シ裁
定ヲ以テ其ノ許可ヲ決スヘシ
第四百五十九條ノ八 被告手續反覆ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ該申
立却下セラレタルトキハ上訴ノ申立アリタルミノト看做ス

OPCARD 10

其ノ遺族ニ夫テ
合ニ付テ年滿ニ達スルノ申立ヲ得ルハ其ノ遺族ノ申立ハ
第四百五十五條ノ次ニ同第二千四百五十五條ノ申立ヲ得ルハ

第一條

第九章 沒收手續並沒收ノ執行ニ關スル規定ノ改正

刑事訴訟法第二百三十八條ノ規定ノ次ニ第二百三十八條ノ二乃至四
トシテ左ノ規定ヲ置ク

第二百三十八條ノ二 檢察廳不起訴ノ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ沒
收ノミヲ科スヘキモノト思料スルトキハ管轄法院ニ其ノ處分ヲ請求
スヘシ

前項ノ請求ヲ爲スニハ處分ヲ受クヘキ者ノ氏名、年齢、住居、請求
ノ理由及ヒ目的物ヲ記載シタル請求書ヲ記録ト共ニ管轄法院ニ提出
スヘシ

第二百三十八條ノ三 前條ノ請求ハ被告死亡シタルニ因リ不起訴ノ
處分ヲ爲ストキト雖モ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニハ死亡者ノ相続
人ニ對シ沒收ヲ科ス
第二百三十八條ノ三 前二條ノ請求アリタルトキハ法院ハ決定ヲ爲
スヘシ

OPCARD 10

前項ノ裁定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得
 第二百三十八條ノ四 前條ノ裁定ハ處分ヲ受ケタル者ノ相續人ニ對シ
 テモ效力ヲ有ス

スルハ
 第二百三十八條ノ三 前二項ノ規定ニ依リテハ抗告ハ裁定ノ後
 人ニ對シテ提起スルコトヲ得
 第二百三十八條ノ二 前條ノ裁定ハ處分ヲ受ケタル者ノ相續人ニ對シテ
 スルハ
 第二百三十八條ノ一 前條ノ裁定ハ處分ヲ受ケタル者ノ相續人ニ對シテ
 テモ效力ヲ有ス

前項ノ裁定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得



その時代を代表する著書として、明治二十三年刊の『新編 日本書紀』がある。これは、日本書紀の全文を、現代語訳と並べて、新編したものである。この書は、日本書紀の全文を、現代語訳と並べて、新編したものである。この書は、日本書紀の全文を、現代語訳と並べて、新編したものである。

第二條

刑事訴訟法第四百七十六條ヲ左ノ如ク改ム
「第四百七十六條 沒收物ハ檢察廳ニ於テ之ヲ處分ス但シ檢察廳ハ
他ノ官署ヲシテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得」

49

OPCARD 10

「第四百八條ノ規定中「或ハ檢察官」トアルヲ削除シ第四百十一條ノ規定ノ次ニ第四百十一條ノ二トシテ左ノ規定ヲ置ク」
「第四百十一條ノ二 檢察廳ノ爲シタル勾留、保證、責付、押收又ハ押收物ノ還付及ヒ鑑定ノ爲被告ヲ醫院又ハ其ノ他ノ場所ニ送入スル處分證人、鑑定人又ハ通譯ニ對シ過料ヲ科スル處分ニ對シ不服アルトキハ直接上級檢察廳ニ其ノ取消又ハ變更ヲ申請スルコトヲ得」
第四百八條第二項、第四百九條、第四百十條第一項、第四百十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付キ之ヲ準用ス」

第一條

第十章 其ノ他ノ改正

刑事訴訟法第四百八條ノ規定中「或ハ檢察官」トアルヲ削除シ第四百十一條ノ規定ノ次ニ第四百十一條ノ二トシテ左ノ規定ヲ置ク
「第四百十一條ノ二 檢察廳ノ爲シタル勾留、保證、責付、押收又ハ押收物ノ還付及ヒ鑑定ノ爲被告ヲ醫院又ハ其ノ他ノ場所ニ送入スル處分證人、鑑定人又ハ通譯ニ對シ過料ヲ科スル處分ニ對シ不服アルトキハ直接上級檢察廳ニ其ノ取消又ハ變更ヲ申請スルコトヲ得」
第四百八條第二項、第四百九條、第四百十條第一項、第四百十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付キ之ヲ準用ス」

第二條

刑事訴訟法第四百九十三條第一項ノ規定中「第六條第二項」ナル字句ノ次ニ「第三項」ヲ加フ

[illegible]

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

手ノ方々「第三版」ニ就テ
附屬補遺諸書百六十三巻第一巻ノ題字中「大正二年」ナリ
註

OpCARD 10